opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 -56

1946年6月21日、聖ホセマリアはオプス・デイについてのローマ教皇庁の認可を得るべく、バルセローナを出帆しますが、大嵐に見舞われます。

2024/08/21

過去の記事はこちらから

6月21日夕方、聖ホセマリアはバルセローナを出帆しました。夕食の後、風と波が徐々に激しくなり、この季節には珍しい大嵐になりまし

た。嵐は20時間ほど続き神父は一睡も出来ずに翌日の夜にジェノバに到着。迎えに来ていたドン・アルバロともう一人とともにホテルに宿泊。 翌朝近くの教会でミサを立て、すぐ借りた車でローマに向かいました。

ローマに着いたのはすでに夜。バチ カン広場のすぐ近くのアパートに泊 まりました。夕食を済ませた人々は 旅行の疲れですぐに寝てしまいまし た。アパートのベランダから教皇の 書斎の窓から光が漏れるのが見えま した。聖ホセマリアはローマ教皇を 「地上の甘美なキリスト」と呼び深 い愛を抱いていました。若い司祭の ときマドリードの街路をロザリオを 唱えながら、よく教皇の手から聖体 をうけることを想像していました。 今その教皇様が目と鼻の先におられ るのです。深い感動に動かされて、 ベランダから一晩中教皇のために 祈って夜を明かしました。

パドレに助けの手を差し伸べたくれた最初の人は、国務長官のモンティーニ枢機卿(のちの教皇パウロ6世)でした。すでにドン・アルバロと親しくなっていた枢機卿は、バチカンの多くの著名人にパドレを紹介してくれました。7月16日、教皇ピオ12世との謁見があり、パドレは子どもが父親にするように心の中にあることをすべて打ち明けました。

は8月の末にスペインに戻ります。 ただ、教皇庁はオプス・デイの目的 は賞賛に値すると宣言する文書を渡 してくれました。これはオプス・デ イを認可するのと同じでした。後 は、新しい組織を定める法律文書が 完成するのを待つばかりです。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-56/ (2025/11/20)